

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）
〔PCT 36 条及び PCT 規則 70〕

REC'D 25 AUG 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 pf-3266	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/004678	国際出願日 (日.月.年) 31.03.2004	優先日 (日.月.年) 30.04.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ B42F13/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社キングジム		

- この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☒ 附属書類は全部で 3 ページである。
 - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 第 II 欄 優先権
 - ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第 V 欄 PCT 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
 - ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 30.11.2004	国際予備審査報告を作成した日 08.08.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 赤木 啓二	2 T 8202
電話番号 03-3581-1101 内線 3266		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第1-20 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第2, 5-16, 18-22 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第1 _____ 項*、22.7.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第3, 4, 17 _____ 項*、30.11.2004 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第1-23 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル
配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-22	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 1-22	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-22	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

請求の範囲 1-22に係る発明は、国際調査報告に引用された何れの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲

1. (補正後) 平板からなる2枚の表装部がその一辺でそれぞれ背装部と連設されて一体となる表紙に対応する係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、

前記係止棒と前記表紙との間に前記シートが固定されるように配置されて綴り込むシートの枚数に合わせて前記係止棒と前記表紙との間隔を任意に設定してファイリングを行なう間隔設定手段を備えるファイリング用具用綴具。

2. 間隔設定手段は、第一の面と第一の面に背反する第二の面とを有する係止棒がシートを固定する際の各面と表紙との距離によって間隔を設定することを特徴とする請求項1記載のファイリング用具用綴具。

3. 前記背装部はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、前記係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記係止棒と表紙との間に前記シートが固定される請求項1または2記載のファイリング用具用綴具。

4. 前記表紙の表側に設けられる背装部より長さの短い帯状背板と背装部裏側に帯状背板に対応する係止棒とから構成される請求項1または2記載のファイリング用具用綴具において、

前記背装部は複数の背装穴部が設けられて、帯状背板はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、この鍵状係止部は背装部に設けられた複数の背装穴部を貫通し、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、前記係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記

鍵状係止部に係止されることにより前記係止棒と表紙との間に前記シートが固定される請求項 1 または 2 記載のファイリング用具用綴具。

5. シートは、中央部が圧着されて複数の穴部が設けられるとともに上部に開口部が設けられた透明な袋状に形成されることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

6. 係止棒は、径が小さい括れ部とこの括れ部より径の大きい押圧部とから構成されることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

7. 係止棒は、その中央に薄板を挿入して水平移動させるための係着凹部が刻設されることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

8. 括れ部は、結合溝が長軸方向に刻設された係止部と、曲面から構成される円形部とから構成されることを特徴とする請求項 6 記載のファイリング用具用綴具。

9. 結合溝は、円形曲面の点対称の 4 点が切欠けされることを特徴とする請求項 8 記載のファイリング用具用綴具。

10. 押圧部は、括れ部の中心軸線が押圧部の中心軸より特定方向に偏って設けられることを特徴とする請求項 6 記載のファイリング用具用綴具。

11. 鍵状係止部は、その間に係止棒を挟持する挟持部の先端に設けられる鍵部が互いに内側に突出されることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

12. 括れ部に刻設された係止部は、その中央に鍵部を係止するようにすべり止め突起部を突設させることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

13. 鍵状係止部は、対向する挟持部の間に挟持部より高さの低い板状のストッパ部が背装部より垂直に突設されることを特徴とする請求項 3 または 4 記載のファイリング用具用綴具。

14. 係止棒の結合溝と結合溝底部は係合する帯状背板の鍵状係止部に合わせ鋭角に刻設することを特徴とする請求項 3 乃至 13 記載のファイリング用具用綴具。

15. 係止棒の片面周辺部にリブを設けるとともに径の違う2つの円を一部結合させた形状の穴部が複数形成されることを特徴とする請求項1または2記載のファイリング用具用綴具。

16. 係止棒は、矩形状に形成されて外側四辺端部はそれぞれ一方の面である表面に対して垂直外向きにリブが突設されることを特徴とする請求項1または2記載のファイリング用具用綴具。

17. (補正後) 係止棒はその長軸方向に沿って複数個の穴部が予め定められた位置に穿設されて前記穴部は直径の大きい開放径穴部と直径の小さい係止径穴部が一部重なって形成されて、背装部より垂直に突設される突起部に設けられる係止溝部とが係止固定されることを特徴とする請求項15または16記載のファイリング用具用綴具。

18. 係止棒は軸心を中心とする弧状曲面と平面とからなり背装部より垂直に突設される突起部に背装部の長軸方向と平行に貫通する円形穴部に貫入することを特徴とする請求項1または2記載のファイリング用具用綴具。

19. 係止棒は矩形であってその長辺端部全体に突設される複数のリブの相対する面に溝が刻設されて背装部より垂直に突設される突起部に設けられる環状リブと咬合することを特徴とする請求項1記載のファイリング用具用綴具。

20. 係止棒は一方の面の両長辺に前記面に垂直に突設されたリブと、前記リブの一方の端部にそれぞれ設けられる長方形の被掛止用穴部と、前記リブの他方の端部に穿設される第1ピン孔とを備え、背装部に垂直に相対して立設される平板と、前記平板の中央に開口される第2ピン孔と、第1ピン孔と第2ピン孔に貫通して係止棒を回動可能に固定するピンと、背装部の他端に設けられる固定部に背装部と垂直に突設されて側面に掛止部を備える第2平板とから構成されて前記掛止部が前記被掛止用穴部に掛止して係止棒を固定することを特徴とする請求項1記載のファイリング用具用綴具。

21. 係止棒は複数の円形に刻装される刻装部と、前記刻装部中央に穿設されるスリットと、背装部より突設される環状リブを備える突部とを備えて係止棒を前記突